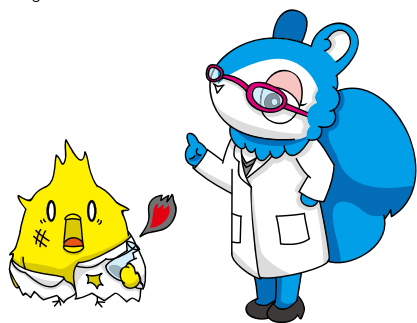


# 南台・弥生町ゆかりの活動家

## — 2人の教育委員の奮闘記 —

中野区立中央図書館には中野区ゆかり作家のコーナーがある。中野区には弥生町に住み、同時期に教育委員を務めた2人の女性がいた。女性ならではの視点で世の中を変えようとした2人について紹介したい。



●高田ユリ  
社会運動家。1916(大正5)年新潟に生まれる。薬学部の助教授を務めた後、主婦連合会に所属し、食品の商品テスト等を通して、不当表示法制定、安全基準づくりなどに貢献した。2003(平成15)年没。

現在、食品の表示はJAS法・食品衛生法・健康増進法によって定められており、この表示により消費者は内容量を確認し、アレルギー食品を見分け、カロリーを気にする事

ができる。しかし、戦後は違った。あまりにも衛生状態の悪い食品が横行した。食品衛生法や食品表示制度が開始されて以降、これでは食生活は安心できるものと思われた。

薬学部だった高田ユリを含む主婦連合会は、商品に本当に価格だけの価値があるのかテストを行った。結果としてそうではなかった。中でも、カンヅメのテストでは、牛缶として売り出しているものの40%が鯨肉や馬肉であった。これらの科学的な結果をもって行政官庁や関連業界に働きかけ、今日の食の安

心があるのだ。高田ユリはその後、消費者教育の重要性を訴え、中野区の教育委員となつて奮闘した。

### ●俵萌子

評論家・エッセイスト。1930(昭和5)年大阪に生まれ、産経新聞社退社後から評論家として活動した。その後、子育てや離婚、乳がんなど自身の経験を元にエッセイの執筆を行い、がん患者支援団体の理事長なども務めた。2008(平成20)年没。

俵萌子は自分の子どもを育てる中で、幼稚園児でも有名校に入る勉強をしている状況を知り、受験戦争を批判したり、競争をなくそうという趣旨の記事を執筆した。1980(昭和55)年、ペンだけではダメだと思い、教育行政に親や子どもの意見を反映させようと、

中野区の教育委員会の準公選制第一回目立候補し、当選した。

教育制度を変えることは簡単ではなかった。「役人と大ゲンカ」したこともあったという。しかし俵は後に語っている。「反対するだけならたやすい。だけど、反対するだけの運動はしたくない。現実はどう変えていくか、対案を出す運動をしたいという思いがありました。」「女たちによる空前絶後の教育改革運動でしたね。」

### 参考文献・参考リンク

『消費者運動に科学を』高田ユリ写真集編集委員会／編 ドメス出版 2009 所蔵：中央  
『俵萌子の教育委員日記』俵萌子／著  
毎日新聞社 1983 所蔵：中央・南台・江古田  
『不登校新聞 俵萌子さんインタビュー』  
[http://www.futoko.org/special/special-18/  
page0915-531.html](http://www.futoko.org/special/special-18/page0915-531.html)

※住民投票を参考にして公職のポストを決める制度